

会議名	第 46 期 一八会 第 3 回 準備役員会議事録			2025 年 2 月 28 日	
				書記	中村
議 題	例会案について				
日 時	2025 年 2 月 28 日(金) 19:00～21:00		場 所	菅原乳業株式会社 会議室	
参加者	役 職	氏 名		役 職	氏 名
参 加 者	会長予定者	菅原 州平		幹事予定者	表 宏明
	副会長予定者	北浦 宏祐		幹事予定者	砂村 亮太
	会計予定者	堀 良介		幹事予定者	本田 龍祐
				幹事予定者	岡本 康寛
				幹事予定者	清水 風馬
				幹事予定者	中村 和丸

No	表 題	内 容
1	開会挨拶	菅原会長予定者 <ul style="list-style-type: none"> ・各自が案を練っている段階である。 ・個人単位でしっかり悩みながら進めること、そして会議の終わりには全体像を把握したい。 ・過去 2 回の会議では時間が十分に取れたものの、全体像の共有が不足していたため、今回は参加者全員が各自の案を発表する形式で進めていく。
2	菅原会長予定者案	<ul style="list-style-type: none"> ・自社分析を行う目的の明確化、競争力を高め、社内の課題を改善する。 ・自社分析から始める理由として、客観性や情報収集の重要性が挙げられ、AI を活用して SWOT 分析の OT(機会と脅威)の部分で補完する。 ・自社の基本データを事前ワークとして宿題にするアイデアが出され、GPT を活用した分析結果の活用。 ・分析ワークは個人ワークとグループワークを組み合わせ、当日に実施する計画。 ・AI を使って業界動向レポートを作成し、自社の強み、弱み、ビジネスチャンス、改善点を議論する戦略ワークを提案。 ・生成 AI を補助として活用し、ディスカッションを深めることが提案。 ・AI を使って業界動向レポートを作成し、自社の強み、弱み、ビジネスチャンス、改善点を議論する戦略ワークを提案。 ・最新の技術と事業で必要なことを取り入れ、効率化を図り、事業戦略まで持っていくことを目指す。
3	中村幹事予定者案	<ul style="list-style-type: none"> ・生成 AI の活用:チャット GPT などの生成 AI ツールを使用し、プロンプトを工夫することで、より深い分析や情報の抽出が可能。 ・AI 利用のリテラシー: 生成 AI の危険性やリテラシーの重要性。 ・ノートブック LM の紹介: グーグルの生成 AI であるノートブック LM が紹介され、機密情報を安全に分析できるツールであることを強調。 ・グーグルの生成 AI であるノートブック LM が紹介され、機密情報を安全に分析できるツールであることが強調。 ・社内データを活用したチャットボットの構築: ノートブック LM を利用して、自社の情報のみを学習させたチャットボットを構築。

No	表 題	内 容
		<ul style="list-style-type: none"> ・専門用語が乱立すると内容が入ってこない可能性があり。用語集の作成をしておいて欲しいとの意見あり。
4	砂 村 幹 事 予 定 者 案	<ul style="list-style-type: none"> ・自分軸を明確にすることで、企業理念や戦略を策定。 ・自分軸を概念的に捉えることの難しさや、言語化しにくいという課題あり。 ・研修で座禅等を取り入れることで、自分自身と向き合う時間を作るというアイデアも提案。 ・抽象的な議論に終始するのではなく、具体的な成果物を作成することで、参加者が自分軸を掴みやすくする工夫が必要。 ・「夢」や「目標」を設定することも、自分軸を明確化する上で重要。 ・自分軸が曖昧なままでは、会社の方向性を決定する際に混乱を招く可能性も指摘。 ・とりあえずこの議題で突き進んでいこうという意見が出た。
5	清 水 幹 事 予 定 者 案	<ul style="list-style-type: none"> ・技能実習生の受入れや海外からの依頼も視野に入れている。 ・会社では、業務を外国人に移行していくことを検討しており、人材不足の解消を目指している。 ・自社の課題を学び、その解決策を発表する形式を提案。 ・属人化の問題に焦点を当て、外国人を雇用しても対応できるように、誰でも同じように作業ができる環境。 ・ベテラン社員しかできない業務を抱えている中小企業に対して、業務の可視化と標準化を提案。 ・動画マニュアルを作成することで、属人化が解消されるのではとの意見あり。
6	岡 本 幹 事 予 定 者 案	<ul style="list-style-type: none"> ・夢を土台にして現実を作っていくのか、現状の魅力を土台にして夢につなげていくのか、どちらのプロセスで進めるのかを明確にすることで、企画の作り込み方も変わってくるという意見。 ・参加者が夢について語る際に、抵抗感や気恥ずかしさを感じる可能性も指摘。 ・現在の業務に追われる中で、夢を持つ余裕がないと感じている人が多いという現状も考慮する必要。 ・夢を現実結びつけるための具体的な方法論やフレームワークを提示することで、参加者がより現実的に夢を実現できる可能性。 ・夢を設定する際に、過去の偉人の言葉を引用することで、参加者にインスピレーションを与える。 ・会社や地域の課題解決につながる夢を設定することで、社会貢献と自己実現の両立を目指すことが重要である。 ・夢を語ることの意義を明確に伝えることで、参加者のモチベーションを高めれる。 ・マンダラチャートなどを利用。
7	表 幹 事 予 定 者 案	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業が SDGs (持続可能な開発目標) 経営に取り入れることを目指す。 ・世界の人々が本当にやらなければならないこと、投資との関係、政治的な要素などを考慮する必要性を指摘。 ・SDGs が流行っていた時期と比較して、現在は社会の関心が薄れている可能性を指摘。 ・SDGs が形骸化し、直接的な利益に繋がらないという意見。 ・SDGs が政治的な要素や欧米の思惑を含んでいる可能性を指摘。 ・過去に SDGs ロードマップを作成したものの、十分に活用できていない事例が紹介。 ・もう一度自身で再考察の必要があるのではないかという意見。

No	表 題	内 容
8	堀会計候補案	<ul style="list-style-type: none"> ・識学とは、リーダーシップ、数値化、仕組み化の3つの要素からなるマネジメント理論。 ・リーダーが場面や相手によって適切な態度や役割を使い分けることの重要性。 ・物事を定量的に捉え、客観的な判断や評価を可能。 ・評価制度や権限の明確化など、組織のルールを整備することで、効率的な運営を実現。 ・中小企業が識学の考え方を導入する際の課題や導入方法について議論し、事例研究やグループワークを通じて理解を深める。 ・識学のエッセンスを自社に取り込むことを目的とし、知識の共有だけでなく、実際にルールを作成するなどの実践的な活動を促す。 ・識学を学び、理解した上で人に伝えることは難易度が高く、表面的な知識に留まってしまう可能性も指摘された。
8	準備役員会日程	第4回 令和7年3月13日(木)19:00- 菅原乳業(株)会議室 第5回 令和7年3月17日(月)19:00- 菅原乳業(株)会議室 第6回 令和7年3月27日(木)19:00- 菅原乳業(株)会議室